

令和6年度 全国高校生体験活動顕彰制度
「地域探究プログラム地方ステージ(中国ブロック)」

1. 事業の目的(趣旨・ねらい)

地域探究プログラムは、宿泊を伴うオリエンテーション合宿を通して、ものごとを探究する姿勢、主体的に取り組む態度、課題に向き合う力などを身に付ける。また、地域での実践活動においては、多様な人々と協働しながら地域・社会にある課題解決に向けた取組を行うことで、郷土や自然に愛着を持ち、新たな価値を創造する高校生の育成を目的としている。そして、実践活動を行った高校生が学びや成果を発表する場を設ける。この取組によって、体験活動を積極的に行った高校生を学校や社会がしっかりと評価するよう、その機運を高めることに資することとしている。

2. 事業の概要

(1)後援 岡山県教育委員会

(2)期日 令和6年12月22日(日)

(3)参加者

① 募集対象

地域探究プログラムオリエンテーション合宿を修了し、実践活動を行い報告書を提出した中国ブロックの高校生

② 参加者 5人

個人部門

岡山県立瀬戸南高等学校 1人

グループ部門

広島県立大柿高等学校 2人

山口県立山口高等学校 2人

(3)会場 岡山シティホテル桑田町

(4)評価委員 加藤 智 氏(愛知淑徳大学 准教授)

熊谷 慎之輔 氏(岡山大学 学術研究院 教育学域 教授)

片山 貞実 氏(国立吉備青少年自然の家 所長)

(5)企画・運営のポイント

- ① 遠方からの参加者の負担を軽減するため、交通の利便性を考えて駅周辺のホテルで開催した。
- ② 各施設からの参加者の視点からより良い企画・運営をするために、中国地方の施設職員によるオンライン打合せを行った。また、当日についても他施設に職員の派遣を依頼し、運営を行った。
- ③ 昨年度の引き継ぎ事項より、発表者のプレゼンテーションの動作確認がスムーズにいくように会場と事前対策を入念に行った。

3. 活動の内容等

(1) 日程

令和6年12月22日（日）日帰り 会場：岡山シティホテル桑田（岡山市）

時刻	内容
12:30～13:00	参加者受付（～12:50）、発表者プレゼンテーション動作確認
13:00～13:10	開会式
13:10～13:25	オリエンテーション
13:30～14:30	プレゼンテーション（個人部門⇒グループ部門の順）
14:15～14:45	休憩 評価委員審査
14:45～15:15	審査結果発表・講評
15:15～15:25	表彰式
15:25～15:35	閉会式

(2) 活動の状況



【開会式】



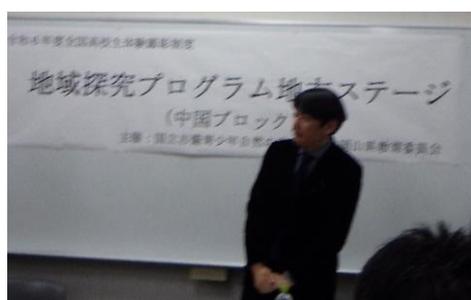
【プレゼンテーション(個人部門)】



【プレゼンテーション(グループ部門①)】



【プレゼンテーション(グループ部門②)】



【講評】



【表彰式①】



【表彰式②】



【表彰式③】



【閉会式】

4. 成果・課題

(1) 成果

- ① 遠方からの参加者にとって移動の負担が少ないことはとても良いことであるという声を参加者から聞くことができた。
- ② 中国ブロックの施設職員によるオンライン打合せを行うことで、当日の動きを細かく共有することができた。また、些細なことでも情報共有をすることで、より見通しを持つことができ、当日の運営を円滑に行うことができた。例年の地方ステージでは、担当施設のみで企画・運営を行っていたが、次年度以降の地方ステージ担当施設の経験としても連携することは有意義であると思われる。
- ③ 発表者のプレゼンテーションの動作確認がスムーズにいくように事前対策を入念に行った。会場のホテルと連絡を取り、プロジェクターがタブレット端末につながるかを確認したり、事前にデータを送付の依頼をしたりすることで参加者が安心して本番に臨むことができた。

(2) 今後の課題

- ① 国立吉備青少年自然の家が一時休館期間中であるため、例年のように他県からの参加者が前泊をすることができなかった。そのため、山口県や広島県からの参加者が当日に岡山県に来ることになった。公共交通機関を利用できる時間が限られており、必要最低限の開催スケジュールとなった。来年度は国立三瓶青少年交流の家が担当のため島根県での実施予定である。来年も国立青少年教育振興機構全体で休館期間が設けられることも考えられるため、その施設の状況や立地に合

わせて柔軟に対応をした開催が必要である。

- ② 閉会後にプレゼンテーションについて質問をしたいということで参加者同士の交流が見られた。しかし①の理由より、必要最低限のスケジュールになってしまったことで、参加者同士の交流の時間を十分にとることができなかった。地方ステージは発表の場でもあり、参加者同士の交流や情報交換の場でもあるので、そのような時間も確保できることが望ましい。

担当：企画指導専門職 八木 雄治